内田造船罷工は社に直談判と決る

昨日鈴木文治氏委員と社を訪ひ大譲歩したが重役では問題にならない

【横濱電話】昨報の通り友愛會長鈴木文治氏は内田造船所の職工首問題に就いて之れが調停の爲め來濱、職工側の代表委員木村職長以下八名を伴ひ昨二十二日午後一時山下町の

本社を 訪ひ約四時間に亘りて押問答したが、職工側の要求は初志の六ケ月分の手當要求は此の際無理な注文なれば此の要求はサラリと水に流し其の代り歸國の旅費として月給六十日分を支給して貰ひ度いとあり其の上更に譲歩して

其の内 三十日分は現金にて他の三十日分は證書にても宜しいと申込んだ、併し重役としても職工に對しては十二分同情するが今直に確答を與へる事は出來ぬのみならず實際内田氏自身が既に行詰まつてゐる今日なれば、更に角社長に直接談判をしては

如何と の話しになり結局社員の要求もあれば此の際全使用人より代表者を選んで交渉を開始するに決し社員側より重役二名職工側より五名の代表委員を選んで今廿三日夕刻までに神戸に出發し内田社長を訪問する筈である、一方此の

交渉の 結果を聞くべく神奈川の合宿所には赤ン坊を負ぶつた妻君連や職工が數百名鶴首して待つてゐたが鈴木文治氏より右の顛末の報告あり更に一同の結束を希望し尚ほ萬一交渉不調に終る場合は大袈裟を要求すると告げた

内田社長に直接談判

職工代表者等昨夜神戸に向ふ

内田造船所の造船部職工代表者馬場、平坂、今村各職長及び寺地、西岡、屋の各組長は山下町本社の坂本、武田兩重役附添にて社長内田信也氏に直談判をなすべく愈よ廿三日午後八時五十三分横濱驛發神戸行急行列車にて出發せり

廿八日以前に「解雇せよ」と迫る

内田造船の社員や職工が他の失業者の溢れる前にと なかなか巧い珍談判

内田造船所の重役社員職工は各自に結束して代表者を出し内田社長に解雇手當の増額を迫る事になつたのは勞働爭議の珍現象で神戸に於ける内田氏との會見は多分廿四日午後となるであらう、社員側（二百餘名）は前記の際退職手當及賞與を

要求せ る外別に廿八日以前に解雇せよと迫るのださうである、それは本月末から來月にかけて横濱船渠會社も社員三百名の外各工場會社より一時に多數の失業者が溢れ出す模樣であるからそれ等の機先を制して他に職を求めねばならぬからである坂本重役は語る「内田社長に直接

會つて 話して見れば或は財政状態其他の事情をお話し實際に認容して事件は早く解決すると思ふから自分が進んで會はせるやうに斡旋した、世間は勞働問題許りに力を入れサラリーマンの失業問題は等閑に附して居るやうであるが

大きな 問題だと思ふ之れ勞働問題よりもより以上内田社長から金が出るかどうか疑問であるが職員は圓満に解決し得ると思ふ云々」、尚職工側は内田氏から十五圓を貰はねば一同へ顔向けがならぬからとて決死の覺悟で出發した

委員出發

内田社長に面接のため

横濱内田造船所の爭議に關し社長内田信也氏に對する直接談判委員は廿三日神戸の内田氏より面會承諾の旨の電報があつたので坂本武田の兩重役は午後七時四十分横濱發で先發し續いて社員代表金丸造船部長外六名、今村職次郎外四名は同八時十分職工代表三分何れも社員職工七百餘名の盛な見送りを受けて出發した

五名の委員が愈々膝詰談判

今日神戸に出發 六百の職工に見送られて

勞働爭議の色彩愈々濃厚を加へて來た内田造船所の解雇職工六百餘名の代表鈴木文治氏は、廿二日午後一時から山下町の

本社で 會社の重役阪本、笠原、武田の三名に會見した、職工側は交渉委員八名から報告を聞かうと約束の午後四時前から、横濱市浦島町の社宅附近に集合待受けて居たが、午後六時二十分鈴木會長は委員等と共に歸來して重役との交渉顛末を

報告し 結局神戸市の内田信也氏と膝詰談判をする爲め、交渉委員中から職工長木村辰治外四名を選出し、重役及社員代表者と共に今二十三日午後神戸に出發する事に

決したが 前記交渉委員等が

横濱驛 出發の際は、聲援の意味で全部の職工等が横濱驛に見送る筈である（横濱電話）

職工のみで無い 重役も同じ運命

社員も手當増額を要求 職工社員重役合して運動

鈴木友愛會長は交渉の顛末を語る「坂本專務、笠原、武田兩取締役に合ひ約四時間に亙り交渉を重ねたが、會社は

財政上 全く疲弊し、會社は四百四十萬圓の損失を招き、内田氏個人の損害も百四十萬圓以上ある始末で此間會社重役としてはどうすることも出來ぬと云ふことで、更に職工側の

委員と 協議した上、結局職工が歸國に必要なる旅費だけでも要求しようと一決し、先の要求を撤回し、改めて各人の日給六十日分宛合計七萬二千圓を貰ひたい、夫れでも尚ほ且つ手許現金がないとすれば、其の半額だけでも

現金で 殘り三萬五千圓は内田氏個人として借用證文を取つて置くと云ふことに相談が纏まつたので、再び重役に會見して右の旨を申込んだ處、重役丈では駄

目たとの返答である重役も社員も七月末には職工と同じ運命になることが判つてゐる

社員は 既に今回の退職手當六ケ月分を從來通り今月分だけ貰ひたいと内田氏の許迄申込んで居る始末である此の場合の事だから重役社員も全部合同して夫れで代表委員を

選んだ 上、内田信也氏に迫る事となつたのだが、重役の窮状は大に察して居る【横濱、廿二日電話】

強硬一點張りの重役も狼狽して

二日に亘る最高幹部會 結局具體的な再回答を與へやう 住友電線製鋼の爭議

【大阪電話】住友電線、製鋼兩工場職工の聯盟交渉權及び待遇改善要求に就き住友伸銅所職工代表者から長文の意見書を廿三日午後重役側に提出し實行を促したが其の意見が顧みられず依然重役側に

譲歩の 意思を見出さない樣だつたら從來休止の姿にあつた伸銅所も罷工に參加する事を聲明して居るから是が實現の曉には住友經營の工場は全部の状態となり七千餘の大罷業が形成されて重大な結果に陷るので強硬一點張りで通して居つた重役側も流石に

狼狽し 初め廿三日夜から廿四日午前も引續いて北濱總本店に永田支配人、山下理事以下最高幹部十五、六名集合密談を續けて居る、會社側は多分膝を折つて例の漠然たる聯盟交渉權に對する回答を更に具體的に本物として再回答を爲し形勢の

緩和を 圖るらしい永田氏は「今相談中であるから内容は申上げられぬが聯盟交渉權に關して更に具體的の回答を與へるかも知れない電線所の方は復業通知を出した職工はまだ四百名内外である」と語つて居た

内田社長との會見

昨日は結局物別れに終る 今日改めて會見の豫定

【三ノ宮特電】横濱内田造船職工代表者稲村辰次郎外五名は内田社長に會見の爲め廿四日午前十時卅一分三ノ宮着列車で來神、同驛前山下旅館に宿を取つて午後一時内田汽船に赴き横濱から來た竹田、坂本兩

重役 と共に同社會議室で内田社長と村上、三原、八木の三重役列席の上會見し要求の不當でない理由を說き内田社長も亦會社の狀態を話したが結局纏まらず、午後七時一同は旅館に引揚げた、尚ほ引續いて廿五日午前九時から再び社長と會見する筈である

内田氏と會見

勞働爭議中の内田造船所職工は事情を具して解雇手當増額を同社長内田信也氏に陳情すべく二十四日午前八時四十六分來神、又職工と同じく解雇の運命を見た同造船所員代表者一行は十二時六分三宮驛着列車で着神し横濱より來神し驛裏山下旅館に入り一先づ休憩したが一方造船所重役たる坂本陶一、技師長武田三三の兩取締役は内田社長對職工社員代表者の會見に立會ふべく同朝十時半三宮驛着列車で來神し直に内田汽船に赴き二階社長室に入り内田氏に對し今日までの問題の經過を報告し

一、一年勤續者に、解雇手當六ケ月分支給すること
二、一年以上半期を増す毎に一箇月分を増すこと
三、賞與金を増額すること
四、將來其他雇人も社員待遇とすること

其他の要求につき長時間陳述した

内田氏と膝詰談判

解雇された内田造船職工の交渉委員五名 昨日横濱から神戸へ

内田造船所の解雇職工六百餘名は二十二日午後一時から山下町の本社で會社

重役の 阪本、笠原、武田三氏に會見した友愛會長鈴木文治氏外職工の交渉委員八名から報告を聞かうと午後四時前から不安の内に默々として横濱市浦島町の社宅附近に集合待受けたが午後六時二十分鈴木會長は委員會と共に歸來して重役との交渉顛末を

報告し 結局神戸市の内田信也氏と膝詰談判する爲め交渉委員の八名中から職工長木村辰治外四名を選出し近く同じ運命に陷るべき重役及び社員代表者と共に二十三日午後急遽神戸に向ひ横濱驛を出發した前記交渉委員等の横濱驛出發の際は

聲援の 意味で全部の職工等が横濱驛に委員の門出を見送つた、某職工長は語る「吾々は今日迄出來得る限り我慢をして來たが今日となつてはもう勘忍袋の緒が切れた餘り行り方が非道い併し吾々は飽く迄も穩重な態度を執つて附和雷同する樣なことは絕對にしない職工連中は單に關西の者が多く云ひ出したら却々後へ引かぬ手合が揃つて居るからタトヒ石に噛り付いても遣りますと頗る元氣の體である（横濱電話）

直接談判に内田氏邸へ

重役二名と社員 職工代表十三名

横濱内田造船所の爭議に關し社長内田信也氏の招電に接して直接談判すべく松本、武田兩重役は廿三日午後七時四十分社員代表金原金丸兩氏外五名及び職工代表今村氏外五名は同八時十分横濱發列車で社員職工七百餘名の盛んな見送りを受けて出發神戸に向つた右の如く重役社員職工は結束して代表者を出し社長に解雇手當増額を迫ることになつたのは勞働爭議の珍現象で神戸に於ける内田氏との會見は多分廿四日午後となるであらう（横濱來電）

内田氏との會見

若し不調ならば直ちに友愛會支部に引上ぐ 職工横濱から着神

爭議中の内田造船所職工は社長内田信也氏に陳情すべく同樣解雇の運命に遭つた同造船所員代表者一行と共に二十四日午前八時四十分三の宮着列車で横濱より

來神し 驛裏山下旅館に入り一先づ休憩したが一方造船所の坂本陶一、技師長、武田三三の兩重役は内田對職工社員代表の會見に立會ふべく同朝十時半三の宮着列車で是亦來神直に内田造船所に赴き二階社長室に入り内田氏に對し今日までの問題の經過を報告し打合す所があつたが即ち内田對職工及び

社員の 會見は午後となるべき見込である又友愛會神戸支部では代議員會を開き聲援を協議する筈であるが會見の結果不調に終れば職工連は一先づ山下旅館を引揚げ友愛會支部に移る筈である（神戸電話）